

2015（平成27）年度収支決算の概要について

青山学院財務部

2015（平成27）年度決算報告書（学校法人会計及び収益事業部会計）は、2016年5月26日開催の理事会で承認されましたので、ここにご報告いたします。収支決算の概要は以下のとおりですが、決算の詳細は、資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表等をご覧ください。

事業活動収支は、3区分の事業活動全体において、事業活動収入計400.0億円、事業活動支出計334.9億円で、基本金組入前当年度収支差額（従前の帰属収支差額）は65.1億円の収入超過となりました。

事業活動別では、教育活動収支において、授業料等の学生生徒等納付金261.4億円、国や地方公共団体からの経常費等補助金29.7億円、入学検定料等の手数料21.5億円、寄付金（施設設備寄付金を除く）6.3億円などの教育活動収入計337.3億円に対し、人件費192.1億円、教育研究経費117.5億円、管理経費20.3億円などの教育活動支出計は330.0億円となり、教育活動収支差額は7.3億円の収入超過です。学生生徒等納付金は、大学の学部新設効果や女子短期大学の学費改定などにより、前年比6.5億円の増収となりました。教育研究経費には、ICTネットワーク関連費用5.0億円、大学図書館業務委託費用2.3億円など、管理経費には各学校入試要項・パンフレット等印刷8千万円などが含まれています。前年度決算と比較しますと、人件費は3.1億円の増加、教育研究経費は1.4億円の増加、管理経費は1.5億円の減少となりました。

教育活動外収支では、受取利息・配当金7.1億円、収益事業収入によるその他の教育活動外収入7千万円の教育活動外収入計7.9億円に対し、借入金等利息による教育活動外支出は計1.5億円となり、教育活動外収支差額も6.4億円の収入超過です。教育活動収支差額7.3億円と教育活動外収支差額6.4億円の二つを合わせた経常収支差額は13.7億円の収入超過となりました。

特別収支においては、保有金融資産の入れ替えに伴う有価証券売却差額（売却益）や大学町田グラウンド用地のうち緑地帯部分の売却による不動産売却差額（売却益）などの資産売却差額50.6億円、施設設備補助金、施設設備寄付金等のその他の特別収入4.1億円などの特別収入計54.7億円に対し、中等部校舎建替工事に伴う不動産処分差額を含めた資産処分差額3.1億円や過年度修正によるその他の特別支出1千万円の特別支出計は3.3億円となり、特別収支差額も51.4億円の収入超過となりました。

当年度の事業活動収入計400.0億円は前年度369.4億円から大幅に増加いたしました。これは有価証券や土地の売却益という臨時的な要素が大きく影響し、資金運用の外部委託化を進めるに伴い簿価の低い有価証券を売却し、保有金融資産の入れ替えを行っていることによるものです。このような状況において、当年度は安定的な収入増が確保できたとは言えませんが、一方で、学校法人の主要な収入源である学生生徒等納付金や手数料は、各設置学校における施策や取り組みにより、それぞれ前年度から6.5億円、6千万円の増収となっております。今後も財政基盤を強化し、教育環境の向上のため、収入拡大努力を継続してまいります。

このほか、資金収支計算書に計上するものとして、施設関係支出の主なものには、中等部校舎建替工事17.6億円、大学緑が丘グラウンド整備工事1.4億円などがあります。設備関係支出の主なものには、大学図書（資産）7千万円、研究装置・教室AV機器更新ほか大学の教育研究用の備品合計4.2億円などがあります。また学生、生徒、児童、園児の安全安心のため、青山・相模原の両キャンパスにおける校舎等の天井耐震補強工事（7カ所）計3.6億円も実施いたしました。

本学は2014年度に策定した『AOYAMA VISION』の達成に向け、財源を確保していくことが必要です。今後は「青山学院 EVERGREEN150 募金」をはじめとする寄付金の推進により事業活動収入の増加を図り、教育環境、組織・運営体制の充実に取り組み、基本金組入前当年度収支差額の拡大に努めてまいります。

以上